

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京都市立芸術大学美術学部同窓会 発行人：同窓会会長 上村 淳之
http://www.kyogei-ob.jp E-mail info@kyogei-ob.jp TEL/FAX 075-334-2218 携帯／090-7353-6999

2013年度「同窓会役員会」を開催

7月6日(土)に開催した役員会で、2012年度の事業報告、決算報告や2013年度の事業計画、予算などの議案が提案され、審議の結果全議案が承認されました。主な内容についてご報告いたします。



【2012年度報告】.....

- ・大学支援事業＝ギャラリーアクアのパンフや展示日程の印刷、展示台の購入等に50万円支援
- ・同窓会展開催＝3/16～31まで ギャラリーアクアにて戦った後の美術－1950年代－ 19人出展（公募）
- ・一般会計決算報告＝収入：9,333,196円
支出：5,547,649円
差額：3,785,547円
- ・基金特別会計決算＝繰越金：10,300,000円
- ・名簿発行特別会計＝繰越金：1,307,830円
- ・財産合計＝15,393,377円

【2013年度計画】.....

- ・今秋の「芸祭」＝同窓会初の模擬店を出店（同窓生に参加呼びかけ）
- ・「京芸友の会」＝法人・団体会員に同窓会が加入（1口10万円）
- ・大学支援事業＝「大学グッズ」の制作費を支援する（50万円）
- ・同窓会組織強化＝若手幹事の補充・増員（平成以降対象に約40名ほど）
- ・同窓会報と会誌「象」＝発展的統合を目指す（来年度から）
- ・同窓会費徴収＝「終身会費」制（3万円）を導入（来年卒業・修了生から）
- ・一般会計予算＝収入：6,986,000円
支出：5,986,000円
100万円を基金特別会計へ繰入れ
- ・運営要項の一部改正＝事業変更に伴う改正（事務局職員報酬額の改正）
- ・役員の一部異動＝監査の交代、編集委員の追加、HP運営委員の追加

大学移転の方向性示す

＝下京区崇仁地区（京都駅東側）へ＝

京都市立芸術大学では、現在、施設・設備の老朽化・狭あい化等の課題を抱えており、これらの課題の解消と芸術大学としての一層の飛躍を目指して、大学をあげて検討を重ね、平成25年3月28日に京都市に対して、京都駅東側の崇仁地域へ大学を移転・整備することを要望致しました。

現在、京都市において、本学の要望を踏まえて、移転・整備について検討がなされております。

<京都市への要望事項>

- ・次の用地確保を条件に大学の崇仁地域への移転整備を希望する。
- ・移転先の敷地として、元崇仁小学校跡地等を中心に、新たな大学施設の整備に必要なまとまった土地（整備が可能な約4万㎡以上の土地）の確保を希望する。加えて、将来的な拡張を視野に入れたスペースの確保についても検討いただきたい。
- ・大学の移転に際しては、大学の現在地への移転及びその後の運営、とりわけ学生の生活・活動を支えていただいていた洛西地域のことについて考慮し、大学移転後の跡地について地域のためにも資する活用を検討いただきたい。



門川大作京都市長に要望書を渡す建畠哲理事長（左）

新たに「終身会費制」の導入 従来の「年会費制」と並存 便利な選択肢に…

＝来年の卒業・修了生から実施＝

美術学部同窓会の財政は、基本的に毎年の入学生をお願いして頂戴している同窓会入会金（1万5千円）と同窓生をお願いしている会費（年額千円：2年ごとに2千円）で成り立っています。決算・予算を見ていただければ分かるように極めてささやかな財政で運営されており、何か大きな事業を計画しようにも、それを裏付ける財政が少ないため困難な状況です。

この問題を解決するには会費の値上げか、徴収率の向上を図る以外ありません。現在の徴収率（会費納入者数／会報等の配布数）は30%で厳しい状況です。若い世代ほど徴収率が低い傾向にあり、内容を分析すれば＜同窓会に関心が無い（少ない）＞＜忙しくて同窓会まで考えられない＞＜会費を納入するのが面倒＞などが主な理由と思われます。

同窓会では昨年からの問題を取り上げ、検討委員会（杉本委員長）を設置して答申をいただき、7月の役員会で具体策が承認されました。

その具体策は、会費の値上げでなく、「終身会費制」を導入して会費徴収率を向上させるというものです。大学・院を卒業・修了するときに終身分の会費（3万円）を一括して支払い、それで同窓会費納入の面倒から開放される制度です。仮に現会費額が続くとすれば30年分の会費前払とも言え、それ以降は会費が無料になる計算です。また仮に会費の値上げがあっても既納の終身会費が変更される事はありません。

もちろん、従来の年会費制（年額千円、2年ごとに2千円請求）は継続しますので、「年会費制」と「終身会費制」の並存です。

このことによって、若い同窓生からの会費収入が増えれば、全体の会費徴収率の向上につながるものと大いに期待されます。

終身会費制の導入は2014年3月に卒業・修了される美術学部の学生諸氏から適用しますが、役員会でも意見が出ていたように当該学生さんや保護者の方々へ事前に相当丁寧な説明と周知の活動が必要です。音楽学部の同窓会「真声会」では既に終身会費制（卒業時に5万円）が実施されていますが、その経験も学びながら慎重に進めてまいります。さらに大学当局との調整も残されています。

また、現同窓生で「終身会費制」を希望される方には、2年間の暫定期間中（2014年4月～2016年3月末）で変更できるよう考えています。例えば、＜今まで16年間会費を納めてきたがこの機会に終身会費に移行したい＞と希望される場合は、終身会費3万円と既納会費1万6千円の差額1万4千円を納付いただければ終身会費を納付したことになり、その時点で会費納入の煩わしさから開放されます。

ただし事務局で把握できる会費納入の履歴は20年が限度ですので、20年以上会費を納めておられる方が終身会費制に移行するには申し訳ありませんが、1万円の納付が必要です。同じ理由で30年以上会費を納めた方が3万円を超える部分の返金要求をいただいてもお応えすることはできません。

いづれにせよ、従来の年会費制は継続し、また申請による80歳以上の会員の会費免除制（10年以上の会費継続納入実績が条件）も継続しますが、終身会費制への移行を希望される方は事務局へご連絡下さい。

同窓会の役員名簿 (2013年度)

名誉会員	梅原 猛	中西 進	潮江 宏三
顧問	中井 貞次	川村 善之	
名誉会長	建昌 哲（理事長・学長）		
名誉副会長	廣野 貴夫（事務局長）	鶴田 憲次（副理事長）	
	学 内	学 外	
会 長		上村 淳之（1957（昭32）日）	
副会長		望月 重延（1967（昭42）塗）	阿部 緑（1983（昭58）染）
代表幹事	小山 格平（PD 学部長）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）	
幹 事	石原 友明（油画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	濱田 昇児（1949（昭24）日）
	出原 司（版画）	中井 貞次（1954（昭29）染）	榊原 吉郎（1957（昭32）洋）
	金氏 徹平（彫刻）	矢田 精治（1958（昭33）洋）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）
	砥綿 正之（構想設計）	伊藤 義明（1959（昭34）図）	舞原 克典（1961（昭36）洋）
	滝口 洋子（VD）	二階堂 忠（1962（昭37）洋）	佐野 賢（1966（昭41）彫）
	塚田 章（PD）	古川加津夫（1970（昭45）D）	竹内 三雄（1972（昭47）彫）
	藤本 英子（環境D）	中野 順二（1972（昭47）塗）	出井 豊二（1973（昭48）D）
	安井 友幸（漆工）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）	杉本 清（1974（昭49）D）
	日下部 雅生（染織）	岩間 香（1977（昭52）日）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）
	伊東 徹夫（総合芸術学）	市川 博一（1982（昭57）陶）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）
	横田 学（教職）	河原 有伽（1986（昭61）版）	谷本 天志（1989（平1）油）
		安藤 吉準（1989（平1）構）	渡邊 野子（1993（平5）油）
		吉原嘉奈子（1994（平6）漆）	東 正子（1998（平10）構）
会 計	西田 真人（日本画）	松本 静明（1983（昭58）洋）	
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 収（1979（昭54）日）	
		新道 尚美（1998（平10）陶）	人長 果月（1999（平11）構）
		小川久美子（1999（平11）染）	吉岡 千尋（2004（平16）油）
		毛呂 祐子（2004（平16）芸）	

同窓会の組織強化に向けて =若手役員の補充=

同窓会では、正副会長のもと、役員会を中心に事業を実施・推進していますが、現在、幹事役員の総数は51名で、専攻ごとに選出されている学内幹事が卒業生などに幹事就任を呼びかけ、お願いして就任いただいています。

しかし、平成以降の幹事数は、12名と極端に少なく、このまま放置すれば幹事役員の空白期間が顕在化して、同窓会活動の推進に障害を及ぼす懸念があります。

このことを今年2月の臨時役員会で論議し、組織・財政・会報検討委員会（委員長：杉本 清）を立ち上げ検討いただいた結果、次の委員会方針が決められました。

・同窓会組織強化のため、専攻ごとに4年に1名程度の幹事役員を選出するよう努力する。今回は若手幹事を補充するため、平

成元年以降の同窓生を対象にする。

この方針を受け、今期の役員会（7月6日）で次の基準で若手の幹事を選出することを決定し、各専攻の研究室を通じ学内幹事を年内中に選出いただくようお願いいたしました。

同窓生の皆様には、各専攻・研究室から幹事就任のお願いがあれば是非とも引受けて下さいますようお願いいたします。幹事役員の仕事は、年1回開催（7月上旬頃）の役員会に出席いただき提案議題の審議をいただく事が主で、他に忙しい局面はありません。また、今は多忙でとても無理、という事情の方でもとりあえず幹事に登録いただき、事情が許す時が来たときに参画いただけるとありがたいと思っていますので、よろしくお願いします。

「芸祭」に同窓会の模擬店<象の店>を出店 ー同窓生と学生の交流ー =11月2日(土)～4日(月)＝ 本会報に「ワンドリンク無料券」を添付

本年度の芸祭テーマは『EVORIGINAL PASSIOM SHOW / エボリジナル・パッション・ショー』としました。“evoriginal（エボリジナル）”とは“原住民”を意味する“aboriginal（アボリジナル）”に“evolution”と“original”をかけた造語です。芸大生ひとりひとりが、つねに進化を求めて創作を続ける“京芸の原住民”として、来訪者をもてなし、また自らも存分に楽しみ、その情熱の一片を観ることが出来る場に出来れば、との思いから名付けました。

美術学部同窓会は、初めて「芸祭」に模擬店<象の店>を出すことを7月の役員会で決めました。この企画は、以前からもあり中々具体化しなかった経過がありますが、上村会長の押しもあって一気に具体化してきたものです。クラブ活動の模擬店などで先輩との交流例はあっても、同窓会として模擬店を出すのは恐らく初めてのことだと思われます。

コンセプトは、「芸祭」の11月2～4日の3日間を同窓生の「ホームカミングデー」とし、模擬店<象の店>をその基地と位置付けて同窓生相互や学生との交流の場として盛り上げを図るものです。しかし、最近の京都芸大は女子学生が圧倒的に多く、古い世代に染み付いているバンカラ風の「美大祭」の雰囲気は全く見られないほどに様変わりした「芸祭」となっているようです。時代が過ぎ新たな時代に変化した大学が実感できる場でもあり、その中で少しでも残った昔の雰囲気をみつけ出す場ともなります。

ぜひ多くの同窓生の方々に参加いただければ嬉しいと思っています。本会報に添付されている「ワンドリンク券」を持って当日、京都芸大へお越し下さい。

今年の芸祭は、ヴィジュアル面で言えば、カラフルながらも剛健な民族的モチーフが学内を彩り、また、「作品展の充実」や「美術学部と音楽学部の積極的なコラボレーション」などといった、芸大生としての“情熱”を見せる場をより多く設けていきたいと考えています。

卒業生の皆様のご来場をお待ちしております。

2013 年度芸大祭実行委員長 河合 正太郎

予約など難しいことは要りません。上村会長をはじめ同窓会役員も万難を排して「洛西大枝」に駆けつけ、青春を夢見るつもりです。

模擬店<象の店>の場所、メニューなど詳細は次の通りです。

場 所：京都市立芸術大学構内 中央棟 2 階南側出入口付近
（無料券裏面参照）

開店日時：11月2日(土)、3日(日)、4日(月・祝)

※ 12 時～ 20 時（4 日は 18 時閉店）

※「芸祭」は 11 時～ 20 時開催の予定です。

メニュー：湯豆腐（協力 京とうふ藤野）日本酒 ビールなど
あたたかい湯豆腐などを用意して、皆様をお待ちしております。

❗ 車でのご来場はご遠慮下さい。

キトリ線

平成 25 年度京都市立芸術大学祭 あたたか〜い湯豆腐のお店

美術学部同窓会「象の店」ワンドリンク無料券

京都市立芸術大学構内 中央棟 2 階 南側出入口付近

平成 25 年 11 月 2・3・4 日 開店時間（予定）12:00～20:00（4 日は 18:00 閉店予定）

* 本券は美術学部同窓会「象の店」でのみ有効です。芸祭は 11:00～開催予定。

「同窓会展」＝戦後高度経済成長と美術：1960年代を中心に＝

来年2月下旬に開催（アクアにて） 作品公募します

本年3月に京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにて開催された、「戦ったあとの美術—1950年代を中心に」の続編として、1960年代に焦点を当てた展覧会を開催いたします。戦後の経済復興を経て、日本が世界的にも輝かしい進展を遂げつつあったこの時代。東京オリンピックを皮切りに、国内の様々なインフラが整備され、消費文化が華々しく開花するものこの時代です。反面、日米安保条約の締結やベトナム戦争をめぐる社会運動の激化、あるいは公害問題の深刻化など、幸福な世界が抱えている問題が浮き彫りになりつつある時代でもありました。

芸術活動に目を向けてみると、60年代には東野芳明や中原祐介など、新進気鋭の美術評論家が海外美術の動向紹介を矢継ぎ早に紹介し、国内の芸術状況に大きな変化が現れた時代でした。こうした時代の下、京都の若い作家達は何を考え、実践していったのでしょうか。

本展では、こうした時代に京都市立美術大学で教鞭をとっていた教員や学生達の作品を展覧し、その時代との関係を探っていきます。

日時：2014年2月22日（土）～3月9日（日）

<月曜日休館> 入場無料

11:00～19:00（最終入館は18:45まで）

会場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA1

<京都市中京区堀川通御池北東角>

主催：京都市立芸術大学、京都市立芸術大学美術学部同窓会

作品内容：1960年頃から1969年頃の間在京都市立美術大学に在籍／在職していた学生、教員による、当時の作品（作家所蔵作品、芸術資料館蔵作品）の公募展示

作品点数：約30点程度

関連行事（予定）：2月22日（土）

15:00～16:00 会場でギャラリートーク

16:00～18:00 オープニングレセプション

作品公募について

● 公募対象者

① 美術学部同窓会「象の会」の会員。

正会員としての義務（会費納入）を果たしている会員及び特別会員。

② ①の中で1960～1969年までの間に在学された方で、展覧会概要に当てはまる年代に制作された作品をお持ちの方。

● 公募対象の作品

展覧会の概要に当てはまる年代に制作された作品。ジャンルを問いません。

作品のサイズは、主催者が展示可能と認める範囲（平面は30号程度／立体は50cm立方以内）とします。既発表の作品も可とします。

*当該年代制作の作品が手元に無いが、本学芸術資料館に買上げ作品などが所蔵されている場合は、その作品で応募・展示することも可能です。

● 公募の期間

2013年10月1日～2013年12月24日まで

● 応募の方法

公募期間内に、所定のエントリー用紙（同窓会HPから取得可）に必要な事項を記載し、郵便、FAX、メールにて同窓会事務局に提出してください。HPからエントリー用紙を取得できない場合は、同窓会事務局へご請求ください。

エントリーされても、状況によって主催者で調整することがあります。申

込み多数の場合は、原則として卒業年度の早い方を優先します。

エントリーいただいた方には、2014年1月10日までに正式の出品申込受付証をお送りします。（それまでに届かない場合は同窓会事務局へ照会ください）

● 出品料

無料（作品の搬出入に要する経費は出品者でご負担ください）

● その他

搬出入などの詳細ご案内は出品受付証と一緒に送ります。

展覧会目録などは出品者に配布します。

展覧会の案内はがきは主催者で用意し、事前に出品者に配布します。

応募者が少なく、展覧会開催に支障をきたす場合は、主催者の判断で別途出品者を依頼する事があります。

出品者には2月22日（土）開催予定の「トークイベント」に参加いただくことがあります。

● 問合せ先

美術学部同窓会事務局 担当／開本恭子

TEL/FAX 075-334-2218

携帯 090-7353-6999（同窓会）

大学ギャラリー@KCUA 担当／森山貴之

TEL 075-253-1509

キリトリ線

JR京都駅北側バスターミナルC2のりば

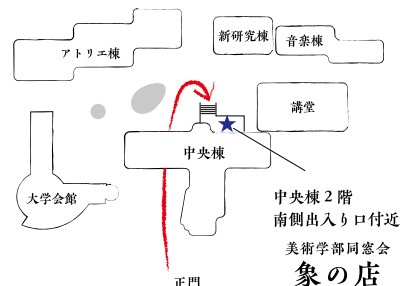
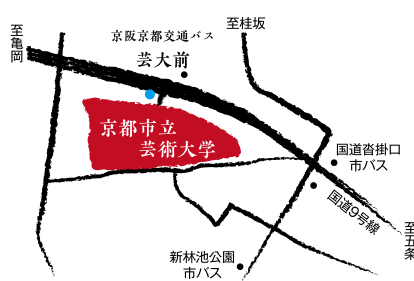
京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗り、芸大前（約45分）下車。徒歩すぐ。

阪急桂駅東口

京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28 系統に乗り、芸大前（約20分）で下車。徒歩すぐ。

JR桂川駅・阪急洛西口駅

京阪京都交通バス11A系統（京都成章高校前行き）に乗り、芸大前（約15分）下車。徒歩すぐ。



昨年度の同窓会展 =戦ったあとの美術：1950 年代を中心に=

日本の美術の歩みを本学美術学部同窓会会員の作品によってたどる展覧会企画の第3回展です。本展では終戦から1950年代に焦点をあて、美術における「戦後」を振りかえり、19人の同窓生の作品20点(写真)と参考資料1点が展示されました。

会 期：2013年3月16日(土)～31日(日)

会 場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA (アクア)

主 催：京都市立芸術大学、京都市立芸術大学美術学部同窓会

協 力：京都市立芸術大学芸術資料館、池尻 昭(城巽自治連合会)



山本友克 「家」 美専絵画科卒



濱田昇児 「比叡山」 美専絵画科卒



大野幹彦 「風景」 美大日本画科卒



西 真 「筍」 美大日本画科卒



西 真 「大根」 美大日本画科卒



中島智恵 「坂に建つ」 美大日本画科卒



城了治 「ポスター (No Atomic Bomb)」
美大工芸科図案専攻卒



柳原良平 「ポスター (原子工業株式会社)」
美大工芸科図案専攻卒



阿部佳男 「青年」 美大西洋画科卒



三宅五穂 「トルス」 美専彫刻科卒



平田白一 「戦乱と愛のうた」 美大工芸科図案専攻卒



竹内義夫 「太陽と木と僕」
美大西洋画卒



内田宏 「天体・地上・人」
美大西洋画科卒



欠田誠 「作品」 美大彫刻科卒



山田沙 「立像」 美大日本画科卒



大嶋八重子 「音楽家の肖像」
美大西洋画科卒



井上平八郎 「鎧」 美大彫刻科卒



中谷健三 「白昼」 美大西洋画科卒



林剛 「ある試作」 美大西洋画科卒



江口晃 「壺」 美大工芸科陶磁器専攻卒



(参考資料)

キャリアアップセンターからのお知らせ

2012年4月に設立した「キャリアアップセンター」では、
在学生・卒業生のキャリアサポートの充実を図っています。

2012 年度の活動について

芸術活動支援では、「現代をたくましく生き延びる」をテーマに、外部講師や卒業後10年が経った京芸生など“たくましく生きる”方を招いた講演会やパネルトークを開催しました。また、様々な方法で自らの道を歩む卒業生へのインタビューをまとめた『瓦版』の発行に取り組みました。

就職支援では、他の芸術系大学との合同企業説明会を実施。ハローワーク若年相談コーナー担当者と連携した就職相談、セミナーも始めました。

その他、「ポートフォリオ講座」や「確定申告入門講座」、「芸大生のためのライティング講座」など実践的なセミナーの開催も行いました。また、在学生、卒業生や教職員が交流する場として、芸大祭で模擬店「キャリアアップセンターカフェ森」を出店しました。

2013 年度の活動について

「現代をたくましく生き延びる」のテーマはそのままに、芸術活動支援、就職支援とも前年の活動に加え、在学生、卒業生へ向けてさまざまなアプローチを考え、実施しています。

今後の主な行事予定

7月から10月	文章作成講座(全3回)
8月10日・11日	レクチャー&ワークショップ「ナリワイをつくる」
9月27日	性格検査—自分への理解を深める—
11月2～4日	芸大祭模擬店「キャリアアップセンターカフェ森」
11月	セミナー「海外へのアプローチ」
12月	アーティスト・イン・レジデンス報告会 講演会「10年後の京芸生」

キャリアサポートの充実に向けて、学外での活動の機会や就職に関する情報、学生とのランチミーティングの提案などなど、諸先輩方からの情報・ご意見をお待ちしております。

美術学部同窓会の皆さまには、同窓会と学生とを繋ぐ大学内の窓口として、キャリアアップセンターをご活用いただければ幸いです。

[キャリアアップセンターお問い合わせ]

TEL:075-334-2211

Mail:c-up@kcua.ac.jp

HP:<http://www.kcua.ac.jp/career/>

facebook:<https://www.facebook.com/kcua.c.up>



「京芸サッカー部 OB・現役 大集合 !!」

京都市立芸術大学サッカー部 祝賀会&大同窓会実行委員長

和田 睦 (1987年 版画専攻修了)

2013年3月31日は、京都芸大サッカー部の現役・OBにとって、大きく変わるきっかけとなる日でした。この日、京都市立芸術大学交流室を主会場として『山中晴夫顧問退官祝賀会&京都芸大サッカー部大同窓会』が開催されたのです。紆余曲折、悲喜交々、いろいろありながらも、実行委員12名が一致団結して当日を迎えました。

まず開催するにあたって、これまで新旧の交流があまり出来ていなかったこと、そして年寄り(大先輩)と若者の連絡手段の違い、個人情報に対する考え方の違いを思い知り大変苦勞しました。とりあえずこれまでも連絡出来ていたOB数十名の中だけで告知を始めましたが、最終的には140名ほどに連絡できるようになり、当日の参加者は70歳代の方から20歳前後の若者まで106名(来賓、現役等も含む)となり、歓喜あふれる盛会となりました。

当日のプログラムを簡単に記しておきます。

■午前の部(交流試合)

現役とOBの参加者(老若男女不問)による試合・ミニゲーム等

■午後の部(宴会)

- ①開宴の挨拶
- ②祝辞、歴代顧問先生方の紹介
- ③乾杯、記念品贈呈
- ④山中晴夫先生によるご挨拶、歌及び演奏
- ⑤お祝いの演し物
- ⑥OB活動の紹介
- ⑦小池一範新顧問によるご挨拶
- ⑧閉宴の挨拶
- ⑨写真撮影

1975年の三美祭(東京大会)にて東京芸大OBチームと試合をしたことを機に活動を始めた京芸サッカー部OB会。芸術とサッカーを愛するという共通項で集まった仲間は、この『山中晴夫顧問退官祝賀会&京都芸大サッカー部大同窓会』でそのつながりをさらに強め、歴史を伝えながら今後も末永く交流を持ち続けたいと思います。

秋には、現役を交えてのOB合宿を計画しています。せっかく深める事が出来たこのつながりを維持するためにも、試合やコンパを含め交流の場を次々と設けて、再来年の五芸祭(京都大会)でのOB戦優勝を狙っています。この盛り上がり、現役の優勝にもつながっていけばと願っています。

今回の会をきっかけに、サッカー部はOB同士、そして現役とOBの切れかけていた糸が寸前でつながり始めました。この会報をご覧になった、まだ連絡網から漏れていると思われるサッカー部に関わったOBの皆様、ご連絡をお待ちしています。

最後に、この会に会場を提供してくださった大学、学食、伏見、森林食堂、サッカー部関係者、サッカーショップKAMO、そして何より実行委員の皆さん、ありがとうございました。

数ある美術系大学の中でも、このような新旧のつながりが出来る大学、クラブはそれほどないと思います。このことは、京都市立芸術大学のちょっと自慢して良い部分かもしれないと思う今日この頃です。



「京都のアート 次の20年のために ～この10年の活動を振り返って～」

渡邊 ^{なおこ} 野子

(1993年油画専攻卒業、1995年大学院絵画専攻油画修了)

2002年から2年間、私はクンストアカデミーデュッセルドルフのイエルク・インメンドルフとゲアハルト・メルツ両教授の絵画クラスに在籍した。彼らのアーティストとしての情熱・態度、哲学に触れ、同じ時間や場を共有できたことに心から幸せを感じた。インメンドルフの師であったボイスをはじめ、多くの芸術家を輩出したアカデミーは校舎建築も美しく、静謐な漂う廊下を歩くだけで、過去の芸術家達の息づかいを感じた。年1回の“RUNDGANG”では学内に作品が展示され、多くの市民で賑わっていた。ドイツ滞在の後半は文化庁在外研修員としてベルリンに拠点を置き、都市空間と美術の関わりや、絵画から見る遺産について研究を行った。人々の美術に対する熟慮や、歴史の重みと未来への可能性を肌で感じ、研修で得たことを日本の美術に還元したいと考えていた。

帰国後、「ART TODAY 2006」(セゾン現代美術館／軽井沢)では、ジョーンズやポロック、キーファー、ロスコ等、20世紀を代表する作家達の作品のすぐそばで展示をすることができた。私の作品そのものが、彼らの作品に“触れ”ている、対話していると感じた。

現在、母校の京都市立銅駝美術工芸高等学校で担当している「京の美を探る」というフィールドワークでは、京都の老舗や工房、研究者等を訪ね、京都に息づく美意識を明らかにし、そこ

から生徒ひとりひとりが表現者としての自分の課題を見つけることがテーマである。ドイツにはひとつの成熟した都市の姿を見ることができたが、京都がこれまで大切にしてきた独特の文化発展と継承される遺産、人々の美意識と活動も、この街にしかないたったひとつの都市のメッセージであると考えている。未来と世界に向けたアートの発信地となるために、すべての人がアートに関わり楽しむ気持ちを持てるよう繋ぎ手としての役割を担い、新しい都市のありようを具現化するための活動をしていきたい。



【今後の予定】

- *「美工作品展」(京都市美術館) 10/11(金)～14(月)
- *「京都芸術センターにおける作品制作およびワークショップ」
10/1(火)～11/15(金)
- *「3つの定点観察 ～銅駝美術工芸高等学校 教員による3つの個展～」(堀川御池ギャラリー)
11/20(水)～29(金)

着任・退任のお知らせ

○平成25年3月末に退任された先生

工芸科 漆工専攻	山中 晴夫 先生
外国語(フランス語)	柏木 加代子先生

○平成25年4月に着任された先生

西洋美術史	深谷 訓子 先生
工芸科 漆工専攻	大矢 一成 先生

○平成26年3月末に退任予定の先生

哲学	魚住 洋一 先生
現代芸術論	渡邊 眞 先生
美術科 油画専攻	鶴田 憲次 先生
美術科 版画専攻	木村 秀樹 先生
デザイン科 環境デザイン専攻	池上 俊郎 先生
工芸科 陶磁器専攻	叶 道夫 先生

退任記念展・講義の案内

○退任記念展

平成25年11月1日(金)～11月17日(日)
デザイン科 環境デザイン専攻 池上 俊郎 先生
於) 京都芸術センター

平成26年1月12日(土)～1月26日(日)
美術科 油画専攻 鶴田 憲次 先生
於) 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア)1、2

平成26年3月12日(水)～3月30日(日)
美術科 版画専攻 木村 秀樹 先生
工芸科 陶磁器専攻 叶 道夫 先生
於) 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア)1、2

○退任記念講義

7月末現在予定はございません

ホームページ デザインが新しくなりました



2013年4月より美術学部同窓会ホームページを順次リニューアルいたしました。新たに会誌・会報のバックナンバーもご覧いただけるようになりました。同窓会の概要や会則の内容も更新していますので、ご一読下さい。また、卒業生の展覧会情報ページはDMの画像が加わり、さらに魅力的なページになりました。卒業生の展覧会のDMを事務局までご送付下されば掲載させていただきます。総合芸術学科在学生の有志が更新作業を行ってくださいますので、不定期更新である旨をご了承下さい。トップページからは「同窓会後援名義使用申請書」をダウンロードすることができます。住所を変更された際には、お早めに住所変更フォームよりご連絡下さい。その他、随時更新予定ですので、ぜひご活用下さい。

<http://kyogei-ob.jp>

どうぞご活用下さい。

- ▶ 同窓会の概要や会則を見る
- ▶ 芸大関係の個展、グループ展の展覧会情報を知る
- ▶ 会報、会誌のバックナンバーを読む
- ▶ 同窓会後援名義使用申請書のダウンロードする
- ▶ 住所等の変更を連絡する
- ▶ リンクをはる
- ▶ 問い合わせをする
- etc.

2013 年度五芸祭

第59回五芸大学の体育・文化交歓会が5月23日（木）から26日（日）の4日間東京藝術大学をホスト校に行われました。前回2009年度の東京大会はインフルエンザの影響で開催が中止となり、東京藝大での開催は8年ぶりとなりました。今年のテーマは「depARTure」芸術というアプローチから新たな社会の変革の先陣を切って行きたいという意味が込められています。東京藝術大学上野校、都立代々木公園陸上競技場や足立総合スポーツセンター等を会場にサッカー、野球、ラグビー競技等が戦われ京都芸大は本年度残念ながら総合3位の成績でした。ちなみにラグビーは1位、軟式野球と剣道は2位の成績です。京芸からも多くの教職員が参加し盛況のうちに無事五芸祭は終了いたしました。平成26年度は愛知芸大で開催される予定です。

「サイレントアクト 2013」開催中

東日本大震災の復興に関わる活動を行う団体等を広く支援することを目的とするチャリティオークションとして、3回目となる本展覧会が2013年（平成25）8月31日（土）から9月8日（日）まで京都市立芸術大学堀川御池ギャラリー@KCUA（アクア）に於いて開催されています。本展には多くの同窓生が出品されており同窓会も後援していますので、多くの方が鑑賞、入札下さいますようお願い申し上げます。



「京芸友の会」に法人・団体会員（1口）に入会しました

同窓会は、本年度7月の役員会で大学の「京芸友の会」法人・団体会員に加入（1口10万円）することを決め、8月に加入しました。

「京芸友の会」は、昨年（2012年）大学が公立大学法人組織の運営体制に移行したことにより、より広く多くの方々から継続的な財政支援（寄付金）を募る受け皿として本年に立ち上げられました。

「京芸友の会」についての詳細は同封のリーフレットをご覧ください。

また、寄付金の使途は「学生の活動充実のため」を選んで指定しました。これは、在校生は入学時に同窓会入会金を徴収し、すでに同窓会会員であることから、会員への支援・助成という意味です。

また、大学HPに掲載するメッセージは《美術学部同窓会は、京都市立芸術大学の発展を応援しています》としました。

●同窓会は、今後も会の財政状況を考えながら、「京芸友の会」を通じた大学支援を継続して行きたいと考えていますが、同窓生各位におかれましても個人または法人・団体として「京芸友の会」に入会していただけるようお願い申し上げます。

問合せは、大学事務局「京芸友の会」担当です。

電話 075-334-2200（代）

5口以上の御寄付でオリジナル特典が進呈されます。



2015年(平27年)に向けて

=事業計画予定=

- ① 定期総会・懇親会の開催(7月上旬) 京都市内のホテルにて
- ② 「同窓生名簿 2015」の発行
- ③ 「美術学部同窓生の作品オークション」(仮)開催

同窓会事務局から

■ 「ニセ名簿業者」にご注意を

2015年に「同窓生名簿 2015」を発行する予定ですが、これから同窓会の名を騙ったニセ名簿業者が名簿購入などの勧誘をする恐れがありますので、十分にご注意下さい。

同窓会からの案内は、同窓会の住所・電話番号が正しいことを必ず確認して下さい。不審な点は同窓会へ電話などでお問合せください。

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6
京都市立芸術大学内
電話 / fax : 075 - 334 - 2218
携帯 : 090 - 7353 - 6999

■ 満80歳以上の同窓会員 会費免除について

同窓会費を過去10年間、継続して納入いただいた満80歳以上の会員で、会費免除を希望される方は、その旨、同窓会事務局へお申し出下さい。

2012年度以降の会費が免除されます。

■ 同窓会の後援名義使用について

同窓会員が主催する作品展など(個展、グループ展等)で同窓会の後援名義使用を希望される方は同窓会事務局へご連絡下さい。申請書をお送りします。ホームページからもダウンロードできます。

■ 展覧会などのフライヤー、DMをお送り下さい。

メールや郵送で事務局にいただいた情報はホームページや会誌に掲載させていただきます。

■ 同窓生名簿(2010)の在庫あります。

必要な方はゆうちょ銀行の窓口にある払込用紙に

口座番号 01030-7-12844

加入者名 京都芸大同窓会

金 額 3,000 円

通信欄に卒業年または修了年、専攻、氏名をご記入の上、払い込みください。

2012・2013年度会費(2年分 2,000円)未納の方は必ず、会費も含めて払い込みをお願いします。

■ 年会費納入のお願いと納入済みの印字について

同窓会は皆様からの会費によって運営されております。2012・2013年度会費は、2年分 2,000円です。同封の払込用紙にて納入をお願いします。

なお、すでに2012・2013年度会費納入済みの方は封筒の表に「2012・2013年度会費 ◎」と印字されています。

■ 氏名、住所、電話、FAXなどを変更されたときは連絡をお願いします。

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなります。表紙ページに記載の連絡先へ郵便、FAX、メール、いずれかの方法をお願いします。ホームページの住所変更フォームから変更できます。

編集後記

同窓会「象の会」は昨年度の公立大学法人化に合わせ会則を改正し、活動の活性化を図り、様々な企画を行ってきました。今年度も引き続き『同窓会展』や3年目を迎える『サイレントアクト 2013』の後援、さらに初の試みとして芸祭での同窓会による模擬店(象の店)の出店を計画、同窓生のホームカミングデーとしての拠点として皆様にお立ち寄りいただきたいと考えています。

また、同窓会として少しでも大学を財政面で支えるべく「京芸友の会」へ加入、来年度より終身会費制の導入も始められます。

大変大きなこととしては、すでに新聞でも報じられましたが、現校舎の老朽化、狭あい化等の問題解消のため、京都市に対して京都駅東側崇仁地域への大学移転・整備が要求され、検討が始められていることが挙げられます。

本号から念願だった会報のカラー化が実現しました。美術系大学の同窓会報なのに今までモノクロだったのが不思議な気もしますが、ご覧いただいた結果いかがでしょうか?

カラー化にあたっては編集委員の古川加津夫氏に多大の尽力をいただいたことを報告し、感謝とお礼を申し上げます。

会報編集委員 阿部 緑